



数字を語る

東区支部 白崎 修 一

札幌市医師会政策委員会ではこれからの医療はどのようにあるべきか、政府の方針と国民、医療者間のギャップをなくするにはどうすればよいかなどについて毎月激論を交わしています。最近、厚労省が保有する統計のデータを元にして討論する機会が増えてきています。いつもは他委員の提示したデータを眺めフンフンと首肯している私なのですが、遅ればせながら私もネットで統計の森の中に足を踏み入れてみました。結論は、じつに面白い！

まずは北海道にどれだけの数の医師がいるのかということを都道府県（従業地）別にみた人口10万対医師・歯科医師・薬剤師数（平成8年12月31日現在）という統計表から読みとると、今から十年近く前の時点で人口十万人に対して187人も存在していたのです。全国平均は191人ですから北海道はやや少なめであると言えるかもしれません。東北、北海道はどこも200人に届かない、いわば医療過疎的な地域と考えられるわけですが、医師が多いところはどこだろうと数字を追っていくと、東京都で261人、石川県で241人と周辺地域に対して突出している都県がある一方、京都、大阪、和歌山は軒並み200人超の数字が、中国地方の鳥取、島根、岡山、広島、山口の各県も200人超、そして、九州・四国地方は宮崎県が186人、沖縄県が170人とかろうじて200人以下である以外は全て200人超の数字が並んでいます。西日本での医師余りの話は聞いていましたが、これでは仕事に溢れる医師がでてもおかしくはありません。その溢れた医師はどうしてもその地域に住まなければならないという制約がなければ……、北海道・東北地方が狙い目となることでしょう。ちなみに、札幌市は257人で、13大都市の中では中く

らしい順位にいます。それから十年経っているのだからと最新の統計を探してみました。私なりにかなり努力をしてみたのですが、厚労省の統計のデータベースは富士山麓の樹海の如くで、残念ながらこれと同じ種類の統計表に巡り合うことはできませんでした。

さて次に診療科別でどの科の医師が多いのかについて調べてみました。都道府県（従業地）別にみた主たる診療科別人口10万対医師数という統計表に辿り着くことができました。それによると、北海道で全国平均より医師の数が多い科は、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、そして私が専門としている麻酔科でした。札幌市ではどうかとみてみると、これと違って特に目立って少ない科は見当たらないくらいで、まんべんなくどの科も全国平均を上回っていました。人口10万対の比率ですから、札幌市の医師の数が多いことから考えると当然の結果です。

医者の数ばかり追いかけてもしょうがありません。次に目にとまったのが健診・がん検診の実施状況の統計表でした。これは比較的新しくて平成15年度版でした。北海道の健診受診率を全国平均と比較してみると、基本健康調査の受診率が全国平均が44.8%で、北海道が33.5%と全国平均を大きく下回っていました。北海道民の健康に対する意識が低いためでしょうか。各種がんの検診受診率についてみると、胃がんは全国平均が13.3%に対して北海道が15.4%と健闘しています。しかし、肺がんは23.7%に対し16.7%、大腸がんは18.1%に対し15.9%と低受診率が認められました。確か、北海道の喫煙率は全国平均の比ではないくらいに高かったはず。そこで死因はどうかとさらに探っていくと、死因別死亡確率という統計表がありまし

た。これで北海道民の死因で確率が高いのは…、悪性新生物が全国の都道府県の中で、男性で第七位、女性で第三位と非常に良くない結果が目に入ってきました。ちなみに、悪性新生物による死亡確率が一位なのは男性も女性も大阪府でした。そこでガン検診の実施状況の統計表に戻ってみると、大阪府のガン検診受診率は胃ガン、肺ガン、大腸ガン、子宮ガン、乳ガンどれをとっても全国平均よりはるかに低くて、これではガンで死ぬの多いはずだと納得できずしてしまいました。ガン検診は有用なんでしょうか？

死亡確率を調べたら今度は出生率に興味がわきます。当然その種の統計も存在し、探し当てたのが人口動態総覧(率)、都道府県(14大都市再掲)別(平成15年)でした。全国の平均出生率は人口千人対で8.9人です。北海道は平均以下の8.0人でそれ以下なのが高知県の7.8人で、北海道の出生率がいかに低いか実感できました。ちなみに、最も高いのが沖縄県で12.1人です。この統計表の中には死産率も掲載されており、自然死産率と人工死産率とに分けて数字が載っています。これをみると、北海道の人工死産率が25.3人(出産千件対)で、東日本では断トツでした。北海道より高いのが高知、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島各県で、同じ

南国でも沖縄県は16.7人とかなり低い値になっています。この数字が何を物語っているかは、皆様のご想像にお任せいたします。そして離婚率、これも同じ統計表に載っていて、全国平均が人口千対で2.25組で、北海道は2.72組とこれは確か全国一位だったはずと思いきや、沖縄県が2.77組でトップだったのは意外でした。ちなみに、札幌市は2.83組で北海道の離婚率の高さは札幌市が牽引しているとも読みとることができそうです。

厚労省のホームページに入ってみるとキーワードさえ入れれば統計資料がワンサカヒットして、まさにどれをどのように料理するかはあなた次第、といった具合にさまざまな角度から我が国の厚生行政の現状、過去に触れることができるのです。多分、新聞やテレビを介して世に出てくるのはほんの一部で、ほとんどが日の目を見ないデータ(それなりの分野では重宝されているとは思いますが)なのでしょう。こんな統計資料を黙々と作成している厚労省の役人の皆さまのご苦労を無にしないためにも、これらの数字を活用すべく厚労省のデータベース(<http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/index.html>)を有効活用してみませんか？医療の現状が次第に見えてくるのは間違いありません。

(天使病院)